

氏 名	藤井 健人
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 6907 号
学位授与の日付	2023 年 9 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Donor's long-term quality of life following living-donor lobar lung transplantation (生体肺移植後の長期的なドナーQOL の検討)
論文審査委員	教授 藤原俊義 教授 笠原真悟 教授 田端雅弘

学位論文内容の要旨

背景: 脳死ドナーが少ない日本では救命のため生体肺移植が行われるが、生体ドナーの健康関連 QOL(HRQOL)の長期的影響についての報告はほとんどない。

調査方法:1998 年 10 月から 2019 年 12 月まで岡山大学病院の生体肺ドナーを対象に調査を行った。3つのサマリースコア(身体的スコア:PCS、精神的スコア:MCS、役割/社会的スコア:RCS)に集約される SF-36 を用いてドナーHRQOL を測定した。

結果: 対象の 168 人のドナーのうち、117 人が本研究に参加した。ドナーの SF-36 の各スコア平均は全国平均を上回ったが、各スコアが平均より低いドナーがいた。MCS のリスク因子には、ドナー年齢(<40 歳)(オッズ比 [OR] =10.2, $p < 0.001$) とレシピエント年齢(<18 歳)(OR = 2.73, $p = 0.032$) が含まれていた。RCS では、LAS (≥ 50)(OR=3.94, $p = 0.002$) およびレシピエントの死亡 (OR = 3.63, $p = 0.004$) が含まれていた。一方で PCS と関連する予測因子はなかった。

結論:ドナーは移植術後長期的でも許容できる HRQOL であった。今後ドナー候補者に対し HRQOL に関する十分なリスク説明を行い、リスクの高いドナーに対しては長期的なフォローも検討する必要がある

論文審査結果の要旨

脳死ドナーからの臓器提供が限られている本邦では、重症肺疾患の救命のためには生体肺移植が多く実施されている。生体肺移植の場合、多くは2名のドナーから肺が提供されるが、その生体ドナーの長期的な健康関連 QOL に関する報告はまだ少ない。本研究は、生体ドナーに QOL に関するアンケート調査を行い、長期的な臓器提供の影響を検討した臨床研究である。

1998 年から 2019 年までに岡山大学病院で生体肺ドナーとなった 168 人を対象に、質問票 SF-36 を使用して身体的スコア PCS、精神的スコア MAC、役割/社会的スコア RCS を測定した。168 人中 117 人が回答し、各スコア平均は全国平均を上回っていたが、平均より低くなるリスク因子としては MCS ではドナー年齢、レシピエント年齢、RCS ではレシピエントの術前の重症度を示す LAS、レシピエントの死亡が検出された。一方、PCS に関しては関連する因子は認められなかった。生体ドナーは移植後長期の時点でも健康関連 QOL を保てており、本研究で明らかとなったリスク因子を有するドナーに対しては、長期的なフォローなどフォロー体制を検討する必要があると考えられた。

委員からは、生体ドナーでは術前の QOL が本来高いのではないかととの質問があり、その可能性はあるとの回答であった。また、呼吸機能低下や術後疼痛がみられた症例には、長期フォローで呼吸リハや痛みに対してのケアが必要ではないかととのコメントもあった。さらに、臓器提供からアンケートまでの期間が短い症例、長い症例があり、その層別化した解析についての提案もあった。

本研究は、生体肺移植ドナーの長期的な健康関連 QOL を調査検討し、そのリスク因子を明らかにするとともに長期的なフォローの必要性を見出した点で、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。